

若手研究者ネットワーク代表者会議 議事録

日時：平成25年11月15日（金）14:00～16:30

場所：日本学術会議 5階 5-C 会議室

出席者：

・若手アカデミー委員会若手研究者ネットワーク検討分委会

蒲池みゆき（委員長）、横山広美（副委員長）、井藤 彰（幹事）、一ノ瀬友博、竹村仁美、半場祐子、村上暁信、吉田丈人

・若手の会

伊藤ゆり（日本疫学会「疫学の未来を語る若手の会」）、上野太郎（日本睡眠学会 若手の会）、狩野光伸（Biocreation 研究会）、清原康介（日本疫学会「疫学の未来を語る若手の会」）、白石壮志（炭素素材学会）、高瀬堅吉（日本行動科学学会若手の会）、塚原直樹（日本畜産学会若手企画委員会）、所 千晴（資源・素材学会、環境資源工学会）、宮田完二郎（次世代医工学研究会）、吉田一朗（精密工学会アフィリエイト委員会）

配付資料

資料1：若手研究者ネットワーク代表者会議 議事次第

追加資料1：精密工学会アフィリエイト委員会の活動概要

議事内容：

1：趣旨説明

・蒲池委員長より、若手研究者ネットワーク検討分科会のこれまでの活動内容、成果および今後の予定を踏まえて、本会議の趣旨が説明された。

2：会議におけるスケジュールについて

・横山副委員長より、資料1に基づき、スケジュールが説明された。

3：全体自己紹介

・出席者全員による自己紹介が行われた。

4：グループディスカッション

・「若手ネットワークの効果的な活用方法について」をテーマに、参加者を3つのグループに分けて、若手ネットワークが掲げる以下の4つの目標を軸にした議論が行われた。

①分野を越えた日本初の大規模若手研究者のネットワークを確立

②学際融合の新たな研究の創出

③行政の動きを鑑み、必要な時に若手の意見を集約して各方面に協力にアピール

④海外の若手研究者組織との連携に参加

5：グループからの報告

・グループ1からの報告

①ネットワークに関して

➤ 若手研究者の名簿の作成はどうか。

➤ シンポジウムを増やす等、集まる機会が必要。

➤ 参加者の業績になるよう配慮する。

➤ 旅費問題の解決が必要。

②学際融合に関して

➤ 代表的な見本市として、研究分野を紹介する形式はどうか。

③意見集約およびアピールに関して

➤ 文書にして問題提起することは重要で、解決にもつながる。

④海外との連携

➤ 留学生についても考える必要がある。

・グループ2からの報告

①ネットワークに関して

➤ 形式はきちんとしながらも、加入や参加しやすいことが重要。

➤ 顔を合わせることも重要。懇親会も重要。

- 隔月シンポジウムを行ってはどうか。
- 継続性については、代表者登録を基本としても代理出席を可能とすることで、問題ないだろう。
- 継続することで長期的に得られるものがあればよい。

②学際融合に関して

- 掲げられている4つの目標は全て「学際融合」による研究の発展という点に集約されるくらい重要。

③意見集約およびアピールに関して

- 政策提言に関しては、若手アカデミー委員会や日本学術会議内外のパイプを使っていく。

・ グループ3からの報告

①ネットワークに関して

- 学会単位ではなく、産業界との連携も必要。
- 他の学会ではどういった取り組みをしているかを情報収集する場の提供。
- 分科会委員からの一方通行のメール送信ではなく、相互方向の情報送信によるコミュニケーションが必要。

②学際融合に関して

- 代表者登録制では研究者個人レベルでの学際共同研究が起こりにくい。ホームページをうまく活用したり、例えばRead & Researchmapにネットワークの研究者コミュニティを作ったりするのはどうか。
- シンポジウムに自分の研究あるいは学会に関するポスターを掲示することで、業績にもなり、出張旅費も捻出できる。
- 共同研究を開始するためには顔を合わせて議論することが特に重要。

③意見集約およびアピールに関して

- 学際融合等のプラス面だけでなく、若手問題の現状打破のための提言も重要。
- プレスリリースしたり、マスコミにも登場したりして、社会的な知名度を高める。
- 提言を多く出す。

④海外との連携

- 研究面で、学会単位で成功例があれば情報をシェアしてほしい。
- 学際的な内容だとさらに困難。
- GYAの取り組みを紹介してほしい。

6：総括ディスカッション

- ・ グループディスカッションの内容を受けて、総括的な議論が行われた。
- フェイスブックやメーリングリストによる情報交換だけでなく、顔を合わせることの重要性が確認された。
- 価値がある活動を行っているというアピールが足りない。若手ネットワークの発信力を高めることが重要。
- 3月に実施予定のシンポジウムの内容に関しても、本代表者会議の議論内容を反映することとなった。
- 東京だけでなく関西でも代表者会議が実施可能か、半場委員を中心に検討することとなった。

(文責) 井藤